

2019年全国強化指定選手団（男子）活動報告

1. 活動結果、総括

① 活動結果

- ✓ 全国選考会を経て、3月より計6週末練習会を実施。
- ✓ 学生メンバーで6月に韓国で開催された第9回アジアパシフィックラクロストーナメントへ出場し優勝（リーグ戦4勝1敗）

② 活動総括

- ✓ 詳細は3.強化方針・目標設定およびレビューをご参照。
- ✓ 日本男子ラクロスのガラパゴス化からの脱却を図り、世界トップの“常識”を修得することを意識した活動を実施。
- ✓ 限られた練習会回数の中で相当数の要素を提示した為、現段階での各選手による修得度は高いとは言えず、各所属チームでの活動においてもこれらを意識し、能力向上を図ることが求められる。

2. スタッフ体制

GM 嶋田雄二、HC 平田基樹、AC 鈴木直文、岸陽介、佐藤隼
 プレーイングコーチ 関根幹祐、本下純、畠山昂太
 MG 室野井彩香、渡部桜、サポートスタッフ 臼杵志衣奈
 TR 武川航汰、椿野修平（FLUX CONDITIONINGS）

3. 強化方針・目標設定およびレビュー

- ✓ 世界上位3か国の米・加・イラコイに個で通用する選手の育成・輩出を目的とし、個人スキルの強化、基本戦術・プレースキームの修得を図る。以下図は強化項目の一例。

シチュエーション	種類	強化項目	評価	備考
共通	スティック技術	トリプルスレットポジション、ダブルスレットポジション*1の修得	△	習慣付ける為には各選手所属チーム活動における意識が必要。
オフENS	シュート技術	インサイドシュート*2技術の向上	△	スティックプロテクションとシュート確率を高めることを両立するスティックの位置の理解が必要
オフENS	1v1 技術	相手を“ずらす”タッチのバリエーション	○	
オフENS	オフボール技術	オンボールに対して選択肢を作り続ける動きのバリエーションの修得	△	速いパス展開でズラすという発想からの転換が必要
オフENS	戦術理解	1-4-1 Lion/Mambo Pop, Pairs 等の	○	

		基本プレススキームの修得		
ディフェンス	1v1 技術	フットワークの向上	◎	引き続き各選手が意識高く取り組むことが必要。
ディフェンス	オフボール技術	Adjacent-Hedge*3 概念の理解	○	
ディフェンス	オフボール技術	Spider-in-out *4 概念の理解	○	
ディフェンス	戦術理解	マンツーマン DF の基礎的理解	△	1on1 を守り、DF が一人一人対面に責任を持つ考えを習慣化する必要がある。
トランジション	クリア	基本的なダイヤモンド型、ボックス型のクリア方法の修得	○	クリア成功率重視。チームでブレイクをガンガン狙う選手との認識を合わせる必要があった。
トランジション	ライド	基本的なドロップバックライドの習得	○	奪うより、失点しない事やフライを優先した。 ライドへの切り替えを早くする点はどんなライドでも共通するため、練習でも常に意識させたい。
トランジション	GB	動き出し、寄り方、支配の向上	○	少しでも有利な状況 (1on0,2on1) を作り、その状況で確実に拾う事を意識。これも普段から取り組める。
トランジション	FO	ウイングのポジショニングや寄り方	○	結局は FO の個別の特長、都度チューニングすることによってポジショニングが変わるため、コミュニケーションが最も重要。
トランジション	フライ	スムーズな USA フライの修得	×	普段チームで AT をやっている選手がどうしてもフライの意識が低い。

*1 ボールキャリアが取るシュート・パス・ドライブ（ダッチ）の全てを瞬時に取ることのできるポジション。適切なスティックワークの位置および体勢が求められる。

*2 ゴールからおよそ 10 メートル以内のシュート。カットインシュートを含む。

*3 ディフェンス時の概念。Adjacent はボールキャリアの 1v1 の隣にいるディフェンダーを示す（ネクストと呼ばれることもある）。Hedge は、Adjacent の選手が自らのマークマンに責任を持ちつつボールキャリアの侵入するスペース埋める作業（スライドではない）。

*4 DF 陣 6 人が押し上げて絞ってを繰り返す動きのこと。機械的に絞るのではなく、球の流れ、方向に連動して動く（スローバック、ロールバックへの反応、パスレーンを消しながら動く）ことが重要。絞る目安はサポートゾーン（デンジャーの+3 ヤード程度）。

- ✓ 練習会は月 1 回程度実施し、6 月までに計 6 回実施。
- ✓ 強化選手団のメンバー構成は、基本的に社会人 25 名、大学生 25 名、合計 50 名とし、随時入替を実施。
- ✓ 個人スキル、チームの基本戦術など全ての要素を網羅する資料を配布、都度更新。

<第9回アジアパシフィックラクロストーナメント/韓国慶州>

- ✓ DS チームより選抜した大学生で構成される 23 名で ASPAC へ出場。リーグ戦 4 勝 1 敗 2 位通過し、最終的にリーグ戦で敗退したオーストラリアを破り、優勝を果たす。
- ✓ 大会中に改善・チューニングした項目は以下の通り。
 - ・良好なコンディションの維持
 - ・ルーズボールの確保（意識付け/外国人相手でももう一步踏み出して確保する）
 - ・トリプルスレッド及びパス精度・距離の向上
 - ・マッチアップの優劣に応じたプレー（優位性を活かす、劣勢を避ける or カバーする）
 - ・オフenseパッケージのサイズ（選手間で適切な距離を保つ）
 - ・ファールをしない

■星取表（2019年6月27日現在）

	オーストラリア	韓国	台湾	中国	香港	日本
オーストラリア		22〇0	13〇0	0〇17	13〇4	8〇7
韓国	0●22		6〇3	9〇4	4●5	0●6
台湾	0●13	3●6		1●12	4●6	0●14
中国	17●0	4●9	12〇1		1●15	1●18
香港	4●13	5〇4	6〇4	15〇1		0●14
日本	7●8	6〇0	14〇0	18〇1	14〇0	

■プレイオフ（2019年6月29日現在）

6月28日（金）	10:30	プレイオフ（予選1位 vs 4位）		15-2
		オーストラリア	韓国	
	13:30	プレイオフ（予選2位 vs 3位）		14-1
	日本	香港		
6月29日（土）	18:30	プレイオフ（予選5位 vs 6位）		2-10
		中国	台湾	
6月29日（土）	12:00	3位決定戦		3-6
		香港	韓国	
6月29日（土）	15:30	決勝戦		9-4
		日本	オーストラリア	

<出場選手一覧>

<https://www.lacrosse.gr.jp/member/4335/>

4. 活動スケジュール

① 練習会および合宿

回数	日時	場所	内容
1	2月2日	駒沢②	選考会
2	3月2日～3日	アミバ`イタル、駒沢①	基礎練習
3	3月23日～24日	大宮けんぼ	スクリメッジ、基礎練習
4	4月13日～14日	富士通川崎、駒沢②	スクリメッジ、基礎練習
5	5月1日～3日	ホルク1-鹿南	合宿
6	5月25日～26日	駒沢①、フクダ電子フィールド	スクリメッジ、基礎練習
7	6月8日～9日	アミバ`イタル	スクリメッジ、ミーティング
8	6月20日～30日	韓国慶州	ASPAC 出場

② 講習会

3月24日 SNSメディア講習

4月14日 栄養講習

5月25日 韓国遠征事前レクチャー

5. 今後の活動予定

- ✓ 8月～リーグ戦視察
- ✓ 2020年1月初旬 米国遠征
- ✓ 2020年5月連休 英国遠征

以上